

Special Feature

三菱商事

中期経営戦略2018

～新たな事業経営モデルへの挑戦～

三菱商事は、2016年度から始まる3カ年の新しい経営の指針として、
『中期経営戦略2018～新たな事業経営モデルへの挑戦～』を策定しました。
その考え方、具体的な内容についてご紹介します。

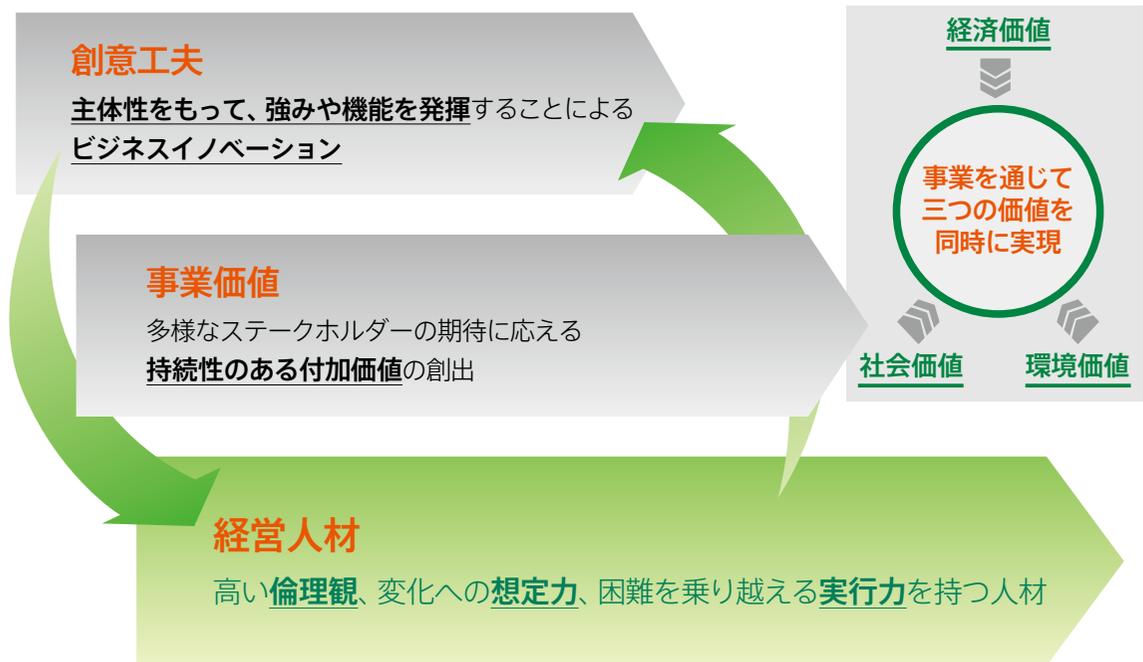
『中期経営戦略 2018』

～新たな事業経営モデルへの挑戦～

三菱商事は、地政学リスクの高まりや新興国の成長鈍化による商品市況の低迷といった環境変化に加え、第4次産業革命ともいふべきAIやIoTなどの技術革新がもたらす産業の大きな変化を踏まえ、持続的に事業価値を創出するため、目指すべき企業像と向こう3カ年の経営方針をまとめました。

1 目指す企業像

三菱商事は、創意工夫により新たなビジネスモデルを構築し、自らの意思で社会に役立つ事業価値を追求していくことで、経営能力の高い人材が育つ会社となることを目指します。



2 向こう3カ年の経営の考え方

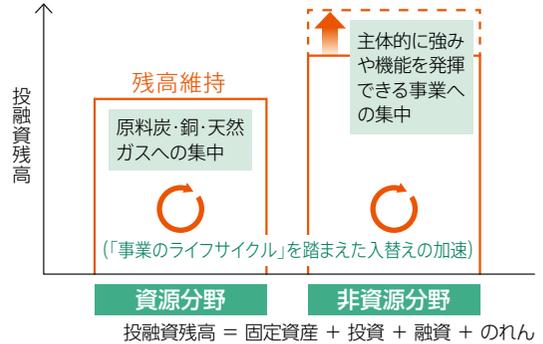
資源事業のボラティリティの高まりを踏まえ、資源価格に左右されない盤石の収益基盤を構築していくことが必要との認識の下、「資源と非資源のバランスの見直し」と「キャッシュ・フロー重視の経営」を進めて経営基盤を再整備すると同時に、成長に向けた打ち手として「事業投資から事業経営へのシフト」と「事業のライフサイクルを踏まえた入替えの加速」を実行します。



1 「資源」と「非資源」のバランスの見直し

資源分野については、原料炭・銅・天然ガスへ経営資源を集中し、投融資残高を一定に保ちつつ、資産の入替えによる質の向上を図ります。

非資源分野では、入替えを進めつつ三菱商事が主体的に強みや機能を発揮できる分野に投資を集中し、三菱商事のポートフォリオの構成を見直します。



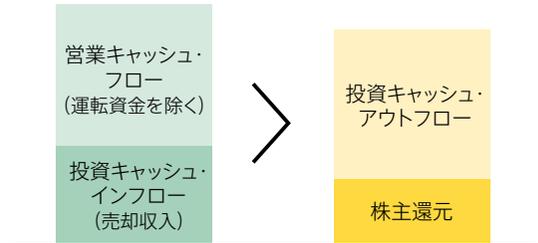
2 キャッシュ・フロー重視の経営

突発的な経済異変にも対応し、安定的に事業を継続できるよう、キャッシュ・フローを重視した経営を進め、有利子負債の水準をコントロールします。

具体的には、向こう3カ年は、キャッシュ創出額の範囲内で、投資と株主還元を実行します。

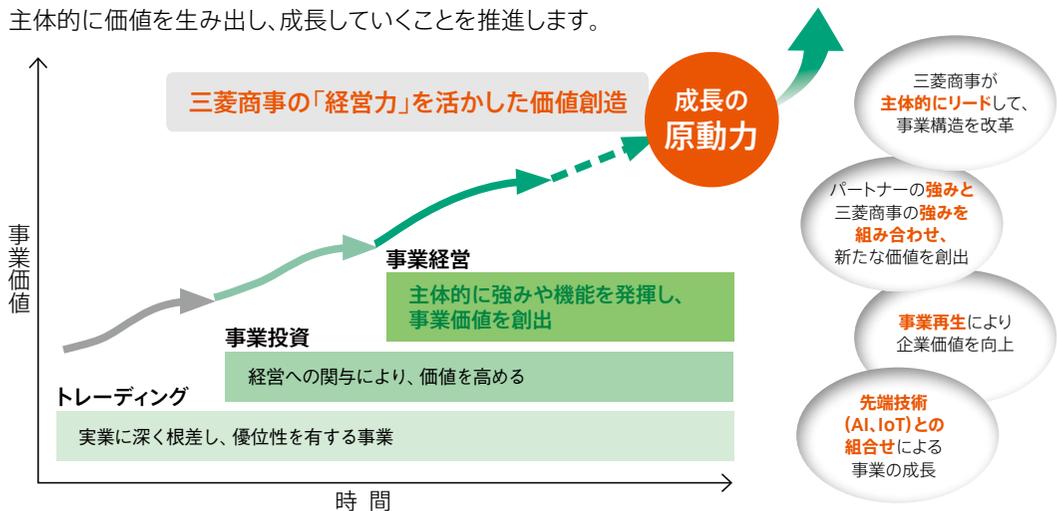
『中期経営戦略2018』期間（3カ年合計）

キャッシュ創出額



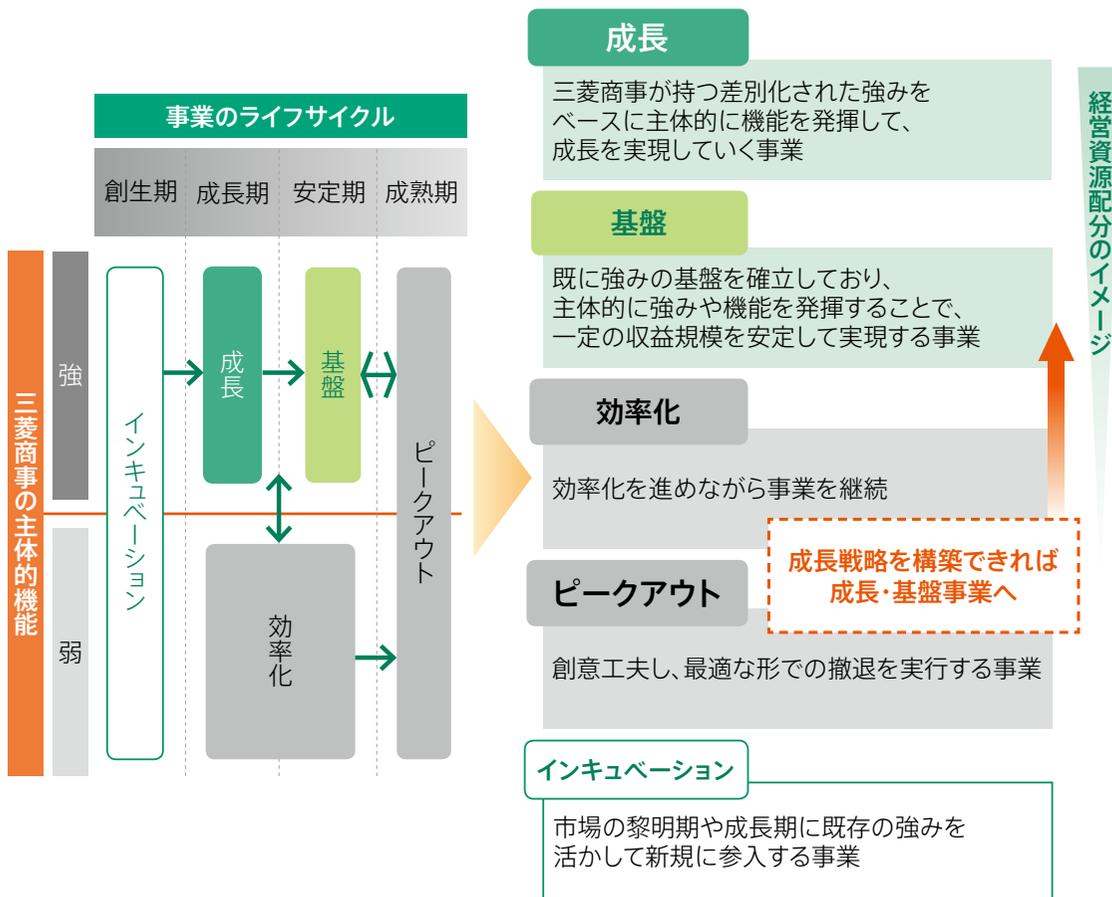
3 「事業投資」から「事業経営」へのシフト

これまでの成長の源泉を「投資」に求める発想を転換し、事業の中に入り、三菱商事の「経営力」をもって主体的に価値を生み出し、成長していくことを推進します。



4 「事業のライフサイクル」を踏まえた入替えの加速

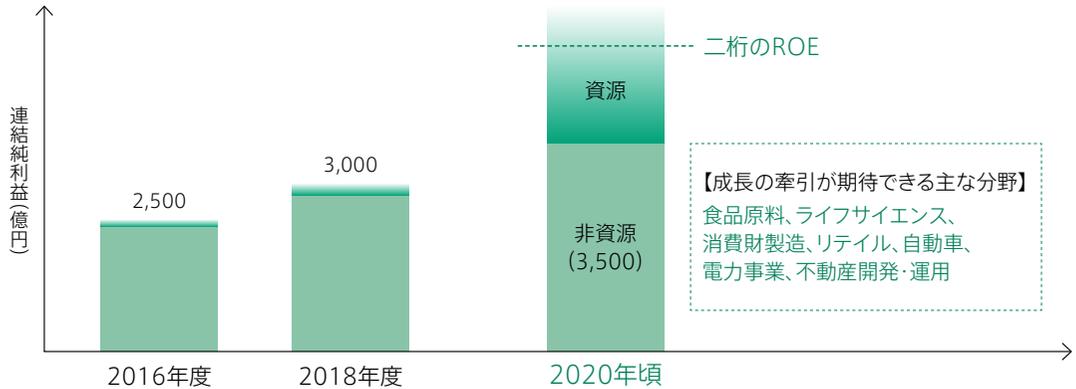
事業には、環境の変化等によって、常にライフサイクルが存在していることを念頭に、主体的機能の発揮という観点からも事業の位置付けを見直し、入替えを促進します。



3 定量目標と株主還元

1 中長期の定量目標

非資源分野のさらなる成長と、資源分野での積極的な資産入替により、2020年頃に二桁のROEの実現を目指します。



2 株主還元

株主還元については「配当」を基本とし、持続的な利益成長に合わせて増配していく累進配当を基本方針とします。また、増配額は柔軟に決定します。

